



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2021.4.19

選手宣誓

1 か月ほど前になりましたが、選抜高校野球が2年ぶりに行われました。その選手宣誓が心に響くものでしたので、令和2年度の修了式で紹介しました。少し間が空いてしまいましたがご紹介します。児童・生徒に次のようにお話ししました。

今、代表者の人に修了証を渡しました。「1年間の勉強をしっかりとがんばったので、次の学年に上がることができます。」という証明書です。1年間よく頑張りました。

さて、令和2年度の一年間を振り返るとき、新型コロナウイルス感染症のことを抜きには話すことはできません。みなさんが、大人になった時「コロナの時は何年生だった?」「私は小学2年生だった」「私は中学1年生だった」という会話が必ずされることでしょう。それほど一生に何度もない大きな出来事でした。

臨時休校や分散登校なども含めて大変な年でしたが、その中で、みなさんは勉強はもちろん、いろいろ制限された中での行事にも一生懸命に取り組むことができている大変すばらしかったと思います。

伝えたい思いはたくさんありますが、今、甲子園球場で行われている選抜高校野球の選手宣誓に心打たれたのでそれを紹介します。去年は春の選抜も、夏の大会も行われず2年ぶりの大会です。その開会式で選手宣誓をしたのは、東日本大震災があった福島県出身の仙台育英高校 島貫キャプテンです。小学生には少し難しいかもしれませんが聞いてください。

『きょうここに高校球児の憧れの舞台である甲子園が戻ってきました。この一年、日本や世界中に多くの困難があり、それぞれが大切な多くのものを失いました。答えのない悲しみを受け入れることは、苦しくてつらいことでした。』

しかし同時に、多くのことを学びました。当たり前だと思ふ日常は誰かの努力や協力で成り立っているということです。

「感謝」「ありがとうございます」これは出場校全ての選手、全国の高校球児の思いです。「感動」、喜びを分かち合える仲間とともに甲子園で野球ができることに感動しています。「希望」、失った過去を未来に求めて、希望を語り、実現する世の中に。

そして、この3月で東日本大震災から10年となりました。日本、世界中に多くの協力や支援をいただき、仲間に支えられながら困難を乗り越え、10年前、あの日見た光景から想像できないほどの希望の未来に復興が進んでいます。これからの10年、私たちが新しい日本の力になれるように歩み続けます。

春は選抜から。穏やかで鮮やかな春、そして、一年となりますように。

2年分の甲子園、一投一打に多くの思いを込めてプレーすることを誓います。

仙台育英高等学校硬式野球部主将、島貫丞』

10年前には想像できなかった希望の未来。今はコロナで不自由かもしれないが将来必ず良くなる。そして、自分たちが日本の力になれるように歩みます。次は自分たちが引っ張ります。という強い決意で締めくくられた選手宣誓でした。

来年度、コロナ禍を超えて、皆さんの力で力強く歩んでいく新宮小・中学校であることを願って式辞とします。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症による困難は続いていきますが、児童生徒、教職員、保護者の方々、地域の方々と力を合わせて、共に乗り越えていきたいと思ひます。